

簿記記帳推進活動への取り組み

－記帳は無理なく・無駄なく・根気よく－

鹿島灘漁業協同組合婦人部

部長 神成田くに

1. 地域の概要

茨城県東南部に位置する鹿島地域は75kmに及ぶ海岸線を有する砂浜域の鹿島灘に面し、沿岸域は、黒潮と親潮の寒暖両流が交錯することで、好漁場が形成され、5トン未満船による沿岸漁業が盛んな地域である一方、鹿島臨海工業地帯として都市化が進んでいます。

また、後背地には鹿島台地を有し、県内でも有数の農業地帯でもあり、農業を兼業している漁家が多く、組合員の約60%が田畑を有しており、稲作を中心に甘藷、大根、キャベツ、ピーマン、メロン等を栽培し、農業で得られる収益も少なくありません。

2. 漁業の概要

私たちの婦人部が所属する鹿島灘漁業協同組合は、Jリーグ・鹿島アントラーズの本拠地で、2002年にはワールド・カップが開催される鹿嶋市にあります。組合員数は正組合員109名、准組合員43名、合計152名です。

私たちの組合は、昭和40年に広域合併により設立されたことから、鹿嶋市のほか鹿島郡内の旭村、銚田町、大洋村、神栖町、波崎町の1市3町2村に住んでおり、遠い者は車で40～50分かけて、漁港まで通っています。

主な漁業は、カタクチシラスやコウナゴを対象とした船曳網、ヒラメやコチを主とした建網（固定式刺網）、鹿島灘はまぐりを漁獲する貝桁網、たこ壺、えび板びき網（小型底曳網）など漁海況の変化に応じて多様な漁業種類を組み合わせて周年操業するという形態で行われています。

平成7年度の漁業全体の水揚は16億1582万円であり、そのうち船曳網が8億3021万円でもっとも多く、次いで貝桁網の3億7310万円、たこ壺の1億4576万円、建網の1億7529万円、えび板びき網の5125万円などの順になっています。

3. 研究グループの組織と運営

私たちの婦人部は、役員（会長1名、副会長2名、会計2名）を含め71名で組織されています。

これまでの主な活動としては、経営とくらしの改善のための貯蓄推進、健康づくりのための漁業者検診や栄養相談の実施、漁業生産の場である海の環境を守るための港内清掃の実施や粉せっけん「わかしお」の使用推進などのほか、水産即売会を実施して、魚食普及を図ることなどに取り組んで来ました。

また、魚と健康のつどいや農山漁村婦人の日推進大会などのイベントにも積極的に参加し、見聞を深めています。

4. 活動課題選定の動機

記帳推進運動に取り組んだきっかけは、平成7年度の県実績発表大会で発表してほしいという話があり、何について発表しようかと役員が集まって話し合いました。しかし、様々な活動はしてきましたが、活動の柱となるものがなく、私たちの婦人部はこれまで何をしてきたのか、今後の活動はこれでいいのかと、これが自分たちの活動を見直すのにもよい機会となりました。

また、鹿島灘地区では漁業の他に農業や遊漁船を兼業している人たちが多く、仕事に追われるままに過ごしてきたことも事実でした。

このような状況の中、今後の婦人部活動の柱となる重点目標を立てようと、婦人部全員を対象にアンケート調査を行いました。その結果、簿記記帳に関する勉強会を開催してほしいという声が多く聞かれました。

確かに、私たちの部員の中でも「どんぶり勘定」的なやり方をしている人が多く、毎年3月の確定申告の時期になると、「今年はあるのに水揚があったのに、何で手元にお金が残っていないんだろう」と頭を抱えることがしばしばあり、記帳の必要性は感じていましたので、経営の良きパートナーを目指して簿記記帳の推進に取り組むことにしました。

5. 実践活動の状況とその成果

簿記記帳を進めるのに当たっては、まず、地区担当の水産業改良普及員と生活改良普及員の方に相談して、農業総合センターの専技室から経営専門の先生を派遣していただき、勉強会を開きました。

先生からは、「簿記記帳は確かにわかりにくい、記帳しなくても生活に困らなければ、必要がないということになってしまうが、記帳すると節税になるばかりでなく、自分の家の経営状況がわかるので、記帳をぜひ進めてほしい」、「記帳することで経営の方針を立てる材料を提供することができる。儲かっているときはいいが、苦しい時期を如何に乗り切るかが大切である。そして、それを基に経営を伸ばしていくことが可能になる。記帳なくして経営の発展ない」などわかりにくい話もやさしく説明していただき、大変参考になりました。

この勉強会が終わった後、部員の中からは、話はわかるけれど、経営といわれてもピンと来ないので、もう少し手っとり早くて、役に立つ税務申告の話を聞きたいという意見がありました。再度、普及員の方と相談して、今度は茨城県農業会議から講師を派遣していただき、青色申告の仕方についての勉強会を開きました。

先生のお話では、「所得300万円越える人は青色でも白色でも記帳する義務があり、同じ記帳するなら青色申告の方がメリットが多い」、「船やエンジンなどの固定資産は台帳に記入して減価償却で経費として控除することがお得である」、「記帳をするのによい方法は、通帳を漁業専用、家計用、個人用に分けることである。そうすることで、記帳は80%完成したのと同じことである」、「青色申告で専従者控除を受けるには、給与を振り込んだ証拠がないとダメある。奥さんの通帳に給与が振り込まれている家では青色申告が成功している事例が多い」など、これもまた参考になりました。

しかし、実際に記帳をすると、「難しい、面倒くさい、時間がない」などとなかなか思うように進みませんでした。再び普及員の方に相談したところ、最初から記帳する

のではなく、家計簿から入った方がよいのではないかということで、日本銀行水戸事務所の中にある貯蓄推進委員会から講師を派遣していただき、家計簿の上手なつけ方について勉強会を開きました。

幸いなことに、講師を務めていただいた先生は、私たちの地元の中学校で教えていた方でしたので、部員の中にも教え子が何人かおりました。同窓会のような打ちとけた雰囲気勉強会になりました。

先生の「最初から家計簿に記帳するのではなく、ちょっとしたノートに記帳すればよいことである。身近に、鉛筆とノートを置いておくことが長続きできる方法で、無理なく、無駄なく、根気よく続けることが大切である」、「明日、ちょっと漁があれば、買えるからといって物を粗末にしては、お金は貯まらない。使えるうちは使うことが大切である」という言葉にうなずいている部員が幾人もおり、この様子を見て、私たちは、これなら自分たちにもできるという自信を得ました。

そして出来ることから始めることが大切であるということ学びました。

6. 波及効果と今後の課題

必要なときに必要なお金を主人からもらい、家計簿をつけたことのない部員が多かったことは事実でした。

しかし、これからは「どんぶり勘定」が通用しないこと、記帳による節税効果、青色申告のメリットなどがわかり、今では部員の約半数が家計簿をつけるようになりました。

それでも、中にはどうしても書けないという人もおりますが、そのような方にはメモ程度でもよいから、支出だけでもいいから記録しておけば、その中から漁業経費にあたる部分を抜き出して申告に利用できることを呼びかけています。

記帳を通して、家計との区別がつくようになり、漁業の経費と収入がはっきりしてきたこと、そして、いつ船やエンジンを更新すれば得策なのかなど金銭的に計画を立てられるようになったことなどがわかってきました。

私たちの記帳推進運動は、まだ始まったばかりで、課題はたくさんありますが、それらを一つひとつ乗り越えながら、木目細かな女性の特性を活かし、目標は高く「経営の良きパートナー」を目指しながら、経費の節減等を図り、合理的な漁業経営を行っていきたくと考えております。

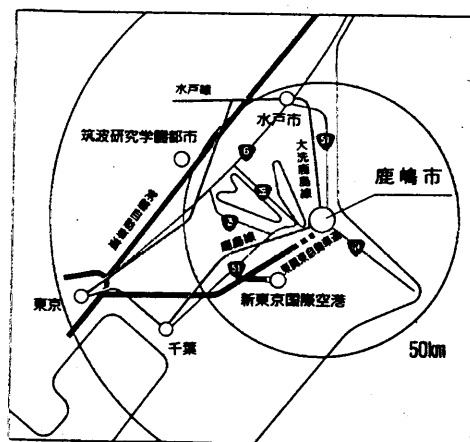


図1 鹿嶋市と鹿島灘漁協の位置図

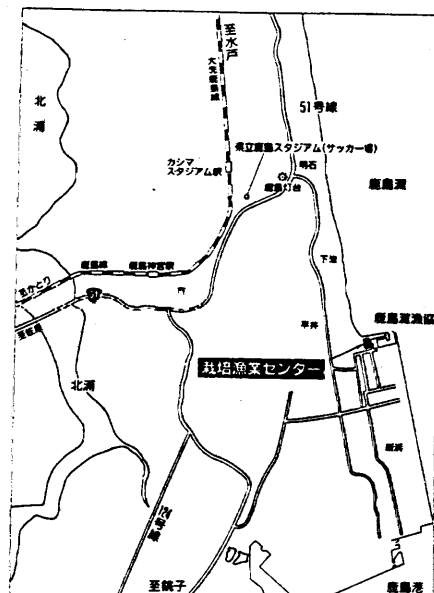
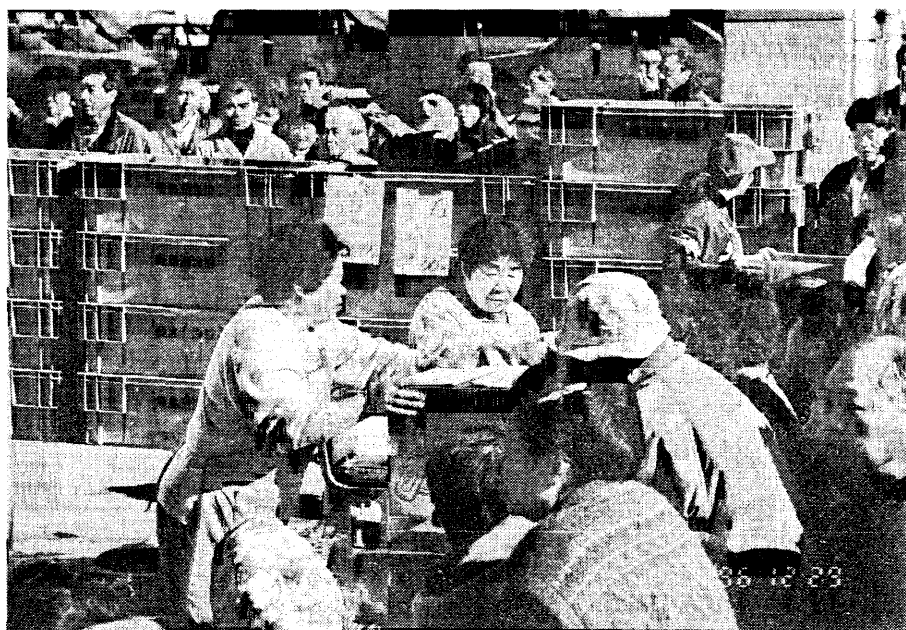
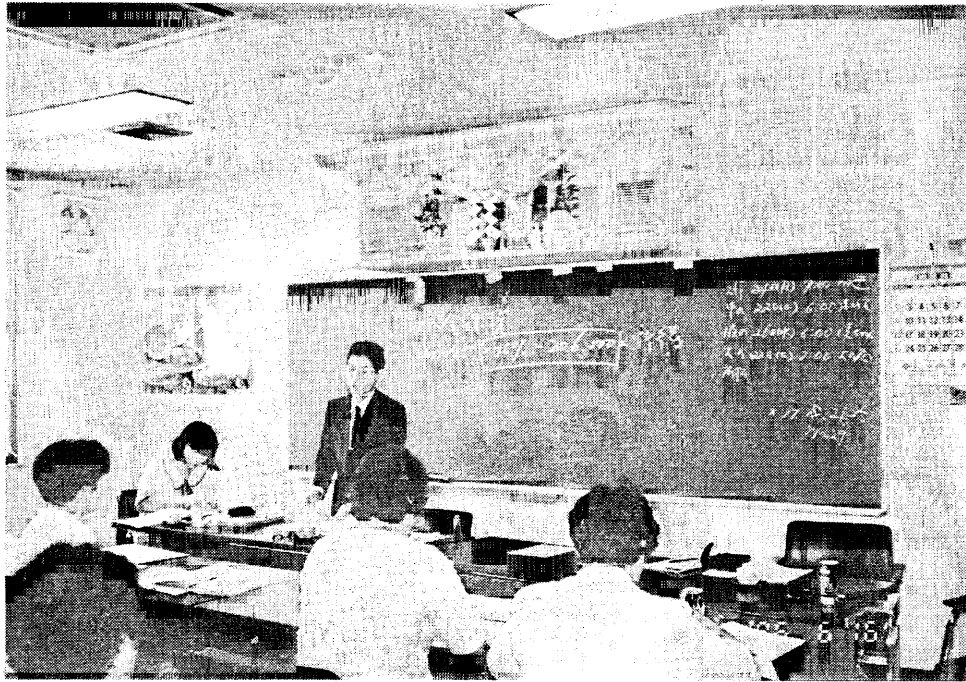


表1 簿記記帳講習会の開催実績

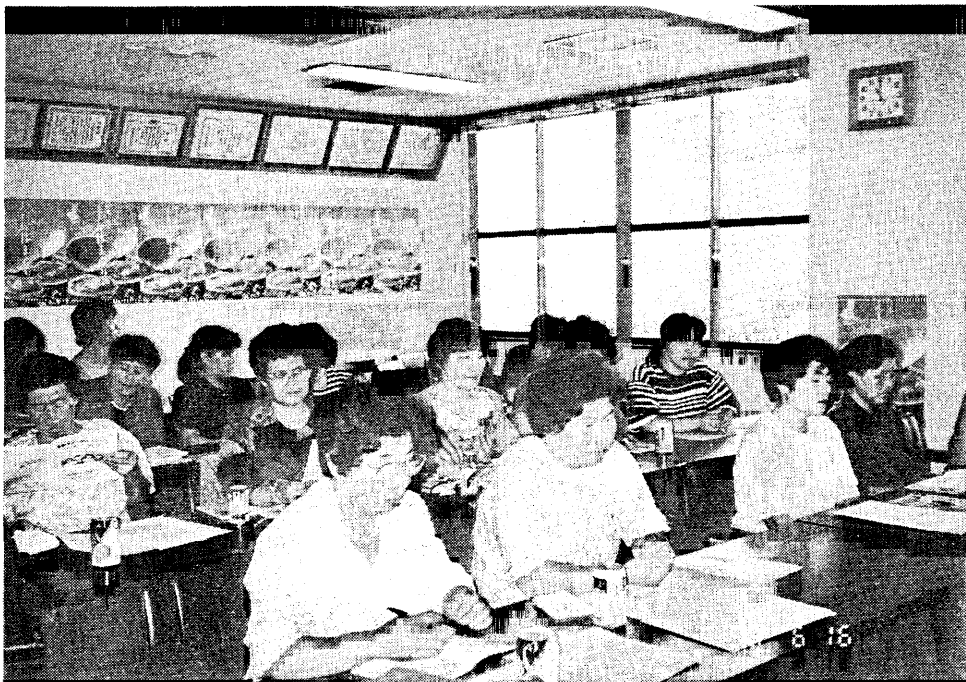
月 日	講 師	内 容
H8. 3. 18	茨城県農業総合センター 二瓶専門技術員	(1) 漁業経営の中での婦人の役割 (2) 簿記記帳の実際とその活用 (3) 簿記記帳による経営改善
H8. 6. 16	茨城県農業会議 梅崎振興部長	(1) 青色申告とその特典 (2) 青色申告の方法 (3) 法人化のメリットとデメリット
H8. 12. 7	茨城県貯蓄推進委員会 飯島推進委員	(1) 家計簿の上手なつけ方と貯蓄の仕方 (2) 貯蓄生活設計普及地区活動



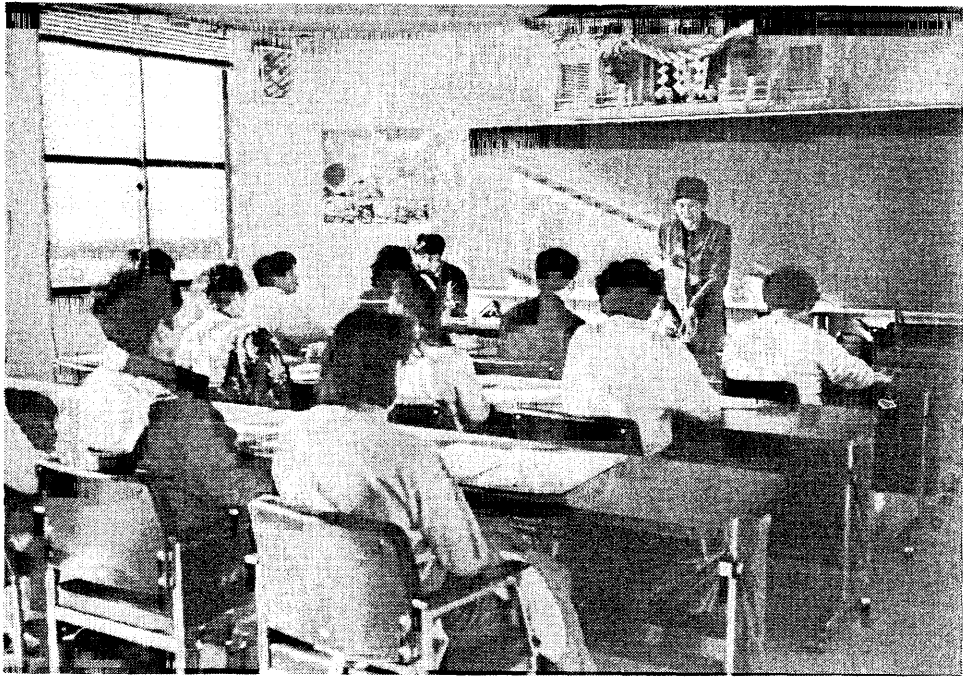
年末恒例の水産即売会の様子



茨城県農業会議の梅崎先生を招いての勉強会



同 上



茨城県貯蓄推進委員会の飯島先生を招いての勉強会



同 上

鹿島灘漁協婦人部活動についてのアンケート

今後の婦人部活動の柱となる重点目標を立て、婦人部活動を充実させるために、アンケートにご協力ください。

問1. あなたの年代は次のどれですか。

- ① 20代 1人 ② 30代 17人 ③ 40代 15人 ④ 50代 14人
⑤ 60代 4人 ⑥ 70代 1人

問2. 現在、あなたのお宅では、漁業以外に他の職業を行っていますか。

- ① 農業 8人
② 農業(自給用) 15人
③ 自営業 6人
④ 漁業専業 24人

問3. 問2. で①、②の農業とお答えになった方へ、現在、あなたのお宅では農協(JA)や生協へ加入していますか。

- ① 農協 20人
② 生協 2人

問4. 現在、あなたは農協婦人部などへ加入していますか。

- ① 農協婦人部 3人
② 農協等の若妻会 0人
③ 生活改善グループ 1人
④ 加入していない 35人
⑤ その他の団体 6人

問5. 現在、あなたのお宅では、遊漁船を営業していますか。

- ① はい 10人
② 自分で営業しないが、時々、人から依頼されたら、船を出すことがある。 8人
③ いいえ 34人

問6. あなたが、今後、漁業の発展のため必要だと思うことは次のどれですか。そう思う番号を3つ以内選んで下さい。

- ① 農業と漁業のバランスの取れた経営 14人
② 遊漁船の振興 9人
③ 栽培・資源管理型漁業の推進 38人
④ 休漁日の設定など定期的な休み 11人
⑤ 後継者対策(花嫁対策も含む) 27人
⑥ 労働時間の短縮や省力化 5人
⑦ その他(具体的に:)

問7. あなたが、今後、婦人部活動を活発にするために必要だと思う番号を3つ以内選んで下さい。

- ① 農協や生協との交流促進 8人
② 女性を組合役員への登用(女性も理事になる) 11人
③ 魚食普及運動 15人
④ 漁業経営に関する勉強会の開催 22人
⑤ 健康診断や栄養診断講習会の充実 28人
⑥ 地域環境の保全・美化活動 16人
⑦ その他(具体的に:)

ご協力ありがとうございました。平成6年12月12日(火)までに組合まで届けて下さい。

鹿島灘漁業協同組合婦人部長